

投手の12秒及び、20秒ルールの適用に関するガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

2017年から採用する投手に関する「12秒及び、20秒ルール」の適用に関するガイドラインを以下に示す。

1. 12秒及び、20秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。

違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。

2. 計時

計時は2塁塁審が行う。

3. 12秒ルールの適用

- ① 走者がいない場合に適用する。
- ② 12秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッタースポックスに入って投手に面した時に始まり、ボールが投手の手から離れた時に終わる。
※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに時計を始める。
- ③ 12秒を経過したとき(13秒になったとき)、2塁塁審はタイムを宣告し、球審に12秒が経過したことを知らせる。
※2塁塁審のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。
※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球したり、その投球を打者が打ったとしてもそれは無効となる。
- ④ 2塁塁審の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。その際、球審は投手及び、守備側の監督に12秒ルールを適用したことを告げる。

4. 20秒ルールの適用

- ① 走者がいる場合に適用する。
- ② 20秒の計時は、次のときに始まり、いずれの場合も投手の手から離れたときに終わる。
 - A) イニングが始まるときやボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。
 - B) ボールインプレイの状態で、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッタースポックスの外に出ざるを得なくなったときなどは、投手がボールを所持し、打者がバッタースポックスに入って投手に面したとき。
 ※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。
- ③ ボールインプレイの状態で、打者がバッタースポックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や他の野手からボールを受け取ったとき。
- ④ 1度目・2度目に20秒を経過したとき(21秒になったとき)、2塁塁審はタイムを宣告し、球審、投手及び、守備側の監督に20秒が経過したこと及び、その回数を知らせる。
- ⑤ 3度目に20秒を経過したとき(21秒になったとき)、2塁塁審と球審は、走者がいないときと同様の処置をする。
- ⑥ 投手が塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。
※投手板をはずしただけのときや偽投の時は、計時を継続する。